

事業報告書

I 法人の概要

1 設置する法人・学校・学科等

法人名 学校法人 正眼短期大学（住所 岐阜県美濃加茂市伊深町872-2）
 学校・学科 正眼短期大学 禅・人間学科（住所 岐阜県美濃加茂市伊深町876-10）

2 当該学校等の入学定員、学生数の状況

（令和6年5月1日現在）

	入学定員	収容定員	在籍者数
禅・人間学科	25人	50人	36人

	1回生	2回生	合計
禅・人間学科	27人	9人	36人

	人数	備考
卒業生	14	R5秋卒3人、R6春卒11人
就職者数	6	
内 僧堂・寺院	4	
自営業	1	
一般企業等	1	
進学者数	1	※就職中（就職者には含まず）
その他	7	社会貢献等

（参考）卒業生の年齢

20代	2
30代	0
40代	1
50代	4
60代	3
70代	4

	人数	備考
入学者		
R5秋入学者	2	
R6春入学者	17	

現学生の状況

	人数	備考
留年者	0	
留学生	4	
社会人学生	30	21歳以上、社会人経験2年以上 留学生除く、留学以外の外国籍は含む
長期履修学生	20	
休学者	11	
退学者数	3	R5年度内

※各項目重複あり

3 役員・教職員の概要 (令和6年5月1日現在)

役員

	現員	定員
理事	8	5~10
監事	2	2
評議員	18	10~21

役職名	氏名	備考
理事長兼学長兼教授	山 川 宗 玄	常勤 評議員兼務
理事	今 村 敬 子	非常勤 評議員兼務
専務理事兼教授	鈴 木 重 喜	常勤 評議員兼務
理事	大 松 利 幸	非常勤 評議員兼務 学識経験者
理事	長 谷 和 治	非常勤 評議員兼務 学識経験者
理事	丹 羽 喜 人	非常勤 評議員兼務 学識経験者
理事	高 木 宏 動	非常勤 評議員兼務 学識経験者
理事	谷 内 田 孝	非常勤 評議員兼務 学識経験者
監事	前 野 昭 道	非常勤
監事	石 原 強 兵	非常勤
評議員兼職員(事務長)	包 子 万 由 美	常勤 本学教職員
評議員兼非常勤講師	青 井 有 信	非常勤 卒業生
評議員	高 林 康 秀	非常勤 卒業生
評議員	武 山 廣 道	非常勤 卒業生
評議員	原 田 宣 昭	非常勤 学識経験者
評議員	堀 部 佳 道	非常勤 学識経験者
評議員兼教授	宇 佐 美 之 規	常勤 学識経験者
評議員兼非常勤講師	松 原 一 哲	非常勤 学識経験者
評議員	(本 学 学 生)	学生護持会選任
評議員	(本 学 学 生)	学生護持会選任

教育職員

学長	教授	准教授	講師	助手	非常勤講師	計
1(兼教授)	1	1	3	0	8	14

事務職員

専任	兼任	計
4	0	4

II 事業の概要

1 沿革と事業の概要・目的

本学の開学は、臨済宗妙心寺派正眼寺住職の梶浦逸外老師が、今より68年前、戦後の荒廃した世相を観て、「開山大師、もし今日いましなば、報恩底に何を求められるか」と自問し、それは法田を耕すことであり、法田を耕すとは、行学兼備の眞の禅僧、人材を打出することであると考へて、禅の専門道場と学校教育の一貫した教育機関が必要であると、本学を開学しました。

本学の寄附行為には、「この法人は、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に従い、人間形成を根幹とする行学一体の教育を施し、社会に有意な人材を育成することを目的とし、この法人の教育は、永久に仏教の信仰、並びに正眼禅の精神に基づいて行ふ」と定められています。また学則では、「仏教に関する専門の学術を研究し、禅的精神によって人格を陶冶し、もって人類文化に貢献する有為の人材を育成すること」を目的としています。この目的を達成するため、禅・人間学科を設置しております。

また平成24年度より、社会人僧侶育成プログラムを開始し、臨済宗妙心寺派宗務本所宗門活性局と連携して、「第二の人生は僧侶になって、世の為人の為に活躍しませんか」の標語とともに学生を募集しています。

2 学校法人の管理・運営

令和7年4月1日より改正私立学校法に基づく寄附行為変更認可申請が必要になり準備を行っている。また就業規則等も改正を行い、質の高い教育・研究を行うため、円滑な管理運営体制を整備し、現代社会の変化に対応した諸規程の整備を随時行っている。教育・研究組織は、学長のもとに教授・准教授・講師・各部長を加えた教授会・大学評議会を置き、大学の重要な事項を諮っている。事務組織は、学長のもとに事務部・教務部・学生部・総務部・図書館を置き運営している。

学校教育法施行規則第26条第5項に規定する「学生に対する退学、停学及び訓告の処分の手続」に関する規程を定める必要があり、学則15章 賞罰(罰則)第50条 第4項に「懲戒処分に関する手続は、正眼短期大学懲戒処分規程に定める」を追加し、学則変更を行った。

3 当年度の主な事業の計画・主な事業の進捗状況

5か年の第一次中期計画は計画策定から丸4年が経過した。世界に蔓延するウイルスや軍事侵襲等、世界的緊迫状況の影響ではないが、学生数の減少が顕著であった。令和5年度には定員充足率100%を目指していたが、68%と非常に厳しい状況である。しかし、受験者数は予定を上回る人数となった。体験入学、聴講生制度導入、長期履修制度を最長5年までとし学生募集の選択肢を広げた。

学生支援においては外部委託していた食事の提供を本学調理に切り替えたことにより、経費削減と学生の満足度を得ることが出来た。

コロナ禍により中止、縮小をしていた正眼寺大摂心を現在の状況で行える範囲で開催した。仏教福祉ではボランティア活動として美濃加茂市社会福祉協議会の依頼で学習支援を行い、美濃加茂市環境フェア、富加町ふれあいONステージへの参加等積極的に交流を行った。

4 設備の状況

平成28・29年に耐震改修工事、新築工事を整えたので、主だった施設設備は行っていない。令和5年度は会計システムの入替えによりソフトウェア支出が増加している。

5 資金調達の状況

今期においては該当する事項はありません。

6 監査の状況

私立学校振興助成法の規定に基づき、公認会計士(西松達郎公認会計士事務所)の監査が実施された。また、学校法人正眼短期大学寄附行為の規定に基づき、監事の監査が実施された。監査報告書には本学監事、決算書(計算書類)に独立監査人の監査報告書が記載されている。

III 財務の概要

(1) 資金収支の状況【新会計基準】

収入の部

(単位:千円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
学生生徒納付金収入	28,547	26,248	23,474	19,651
手数料収入	397	258	217	530
寄付金収入	19,410	21,209	20,500	22,135
補助金収入	19,950	13,832	13,309	9,532
資産売却収入	0	0	0	0
付随事業・収益事業収入	12,380	9,848	8,898	6,996
受取利息・配当金収入	129	618	13	13
雑収入	1,756	1,884	3,198	1,767
借入金等収入	0	0	0	0
前受金収入	5,839	7,273	3,997	11,154
その他の収入	867	2,866	37	917
資金収入調整勘定	△14,849		△ 8,095	△ 4,013
前年度繰越支払資金	128,328	125,836	137,726	130,179
合 計	202,752		203,284	198,861

支出の部

(単位:千円)

科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
人件費支出	38,872	35,907	38,964	39,148
教育研究経費支出	18,047	15,930	18,101	12,811
管理経費支出	7,073	7,841	8,589	8,209
借入金等利息支出	416	389	361	333
借入金等返済支出	5,550	5,550	5,550	5,550
施設関係支出	248	0	0	0
設備関係支出	9,043	532	691	3,725
資産運用支出	0	0	0	0
その他の支出	3,326	3,243	3,784	3,370
資金支出調整勘定	△5,657	△3,096	△ 2,937	△ 6,418
翌年度繰越支払支出	125,836	137,726	130,179	132,133
合 計	202,752	204,022	203,284	198,861

(2) 活動区分資金収支の状況【新会計基準】

(単位:千円)

		科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動による資金収支	収入	学生生徒納付金収入	28,547	26,248	23,474	19,651
		手数料収入	397	258	217	530
		特別寄付金収入	19,315	21,149	20,441	22,075
		一般寄付金収入	95	60	60	60
		経常費等補助金収入	17,257	13,832	13,318	9,532
		付随事業収入	11,580	9,148	8,098	6,196
		雑収入	1,756	1,884	3,198	1,767
		教育活動資金収入計	78,946	72,578	68,806	59,811
	支出	人件費支出	38,872	35,907	38,964	39,148
		教育研究経費支出	18,047	15,930	18,101	12,811
		管理経費支出	7,073	7,841	8,589	8,209
		教育活動資金支出計	63,991	89,678	65,654	60,168
		差 引	14,954	12,900	3,151	△ 357
		調整勘定等	△5,79	2,124	△ 4,248	8,607
教育活動資金収支差額	9,159	15,023	△ 1,097	8,250		
施設設備等活動による資金収支	施設設備等活動資金収入計	2,693	0	0	0	
	施設設備等活動資金支出計	9,290	532	691	3,725	
	差 引	△6,59	△532	△ 691	△ 3,725	
	調整勘定等	162	2,019	△ 674	2,404	
	施設設備等活動資金収支差額	△6,43	1,487	△ 1,365	△ 1,321	
小 計			2,724	16,511	△ 2,462	6,929
その他の活動による資金収支	その他の活動資金収入計		929	1,331	841	907
	その他の活動資金支出計		6,145	5,951	5,926	5,883
	差 引		△5,21	△4,620	△ 5,085	△ 4,976
	調整勘定等		0	0	0	0
	その他の活動資金収支差額		△5,21	△4,620	△ 5,085	△ 4,976
支払資金の増減額			△2,49	11,891	△ 7,547	1,953
前年度繰越支払資金			128,328	125,836	137,726	130,179
翌年度繰越支払資金			125,835	137,726	130,179	132,132

(3) 事業活動収支の状況【新会計基準】

(単位:千円)

		科 目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
教育活動 収入	収入	学生生徒納付金	28,547	26,248	23,474	19,651
		手数料	397	258	217	531
		寄付金	19,410	21,472	20,600	22,422
		経常費補助金	17,257	13,832	13,318	9,532
		付随事業収入	11,580	9,148	8,098	6,196
		雑収入	1,778	1,907	3,219	4,156
		教育活動収入計	78,968	72,864	68,926	62,488
	支出	人件費	39,612	36,271	39,498	39,148
		教育研究経費	52,356	50,756	52,154	46,740
		管理経費	7,290	8,059	8,787	8,304
		徴収不能額等	0	0	0	0
		教育活動支出計	99,259	95,086	100,440	94,192
	教育活動収支差額		△20,291	△22,222	△31,514	△31,704
	教育活動外 収入	収入	受取利息・配当金	129	618	13
その他の教育活動外収入			800	700	800	800
教育活動外収入計			929	1,318	813	813
支出		借入金等利息	416	389	361	333
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	416	389	361	333
教育活動外収支差額		513	929	452	480	
経常収支差額		△19,778	△21,293	△31,061	△31,224	
特別収支	収入	資産売却差額	0	0	0	0
		その他の特別収入	3,089	0	0	0
		特別収入計	3,089	0	0	0
	支出	資産処分差額	250	1	28	0
		その他の特別支出	0	0	0	0
		特別支出計	250	1	28	0
特別収支差額		2,839	△1	△28	0	
基本金組入前当年度収支差額		△16,939	△21,293	△31,090	△31,224	
基本金組入額合計		△7,711	△6,631	△6,895	△3,580	
当年度収支差額		△24,657	△27,924	△37,984	△34,804	
前年度繰越収支差額		△379,052	△401,710	△429,633	△467,618	
基本金取崩額		2,000	0	0	0	
翌年度繰越収支差額		△401,710	△429,633	△467,618	△502,422	
事業活動収入計		82,986	74,181	69,739	63,300	
事業活動支出計		99,926	95,474	100,828	94,525	

(4) 貸借対照表【新会計基準】

(単位:千円)

資産の部				
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
固定資産	766,397	732,157	698,690	668,702
有形固定資産	757,489	723,263	689,795	656,494
特定資産	0	0	0	0
その他の固定資産	8,907	8,894	8,894	12,208
流動資産	128,777	137,824	131,090	132,238
合計	895,174	869,982	829,780	800,940

負債の部・純資産の部				
科目	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総負債	116,157	112,258	103,146	105,530
固定負債	98,796	93,610	88,594	80,678
流動負債	17,361	18,648	14,552	24,852
基本金	1,180,726	1,187,357	1,194,252	1,197,832
繰越収支差額	△401,710	△429,633	△467,618	△502,422
合計	895,174	869,982	829,780	800,940

財務の概要

1 資金収支計算書の概要 (資金収支計算書から見た概要及び前年度との対比)

資金収支計算書は、その会計年度(令和5年4月1日から令和6年3月31日)の教育研究活動に対応する資金の用途(資金収支)と資金調達の総てを明らかにすることを目的としています。

各科目の主な内容は、次のとおりです。なお、文中の金額は、千円未満を四捨五入して表示しているため、計算上と一致しない場合があります。

【資金収入の部】

(1) 学生生徒等納付金収入

前年度比3,823千円減の19,651千円となりました。
学生数の減少が大きな要因です。

(2) 手数料収入

前年度比313千円増の530千円となりました。
この科目の主たる収入は、入学志願者の検定料収入であります。

(3) 寄付金収入

前年度比1,635千円増の22,135千円となりました。
目標金額を上回る寄付金額となりました。

(4) 補助金収入

前年度比3,786千円減の9,532千円となりました。
経常費補助金の減少は、学生数充足率によるものです。

(5) 資産売却収入

前年度同様0円となりました。

(6) 付随事業・収益事業収入

前年度比1,902千円減の6,996千円となりました。
寮生の減少に伴う補助活動収入の減少によるものです。

(7) 受取利息・配当金収入

13千円となりました。

(8) 雑収入

前年度比1,431千円減の1,767千円となりました。
減少理由は、退職金財団交付金収入と日本学生支援機構コロナ助成金・経済対策支援金の減少によるものです。

(9) 借入金等収入

前年度同様の0円となりました。

(10) 前受金収入

前年度比7,157千円増の11,154千円となりました。
入学者数の増加によるものです。

(11) その他の収入

前年度比880千円増の917千円となりました。未収入金の増加によるものです。

【資金支出の部】

(1) 人件費支出

前年度比184千円増の39,148千円となりました。

(2) 教育研究経費支出

前年度比5,290千円減の12,811千円となりました。
認証評価料と奨学金の減少によるものです。

(3) 管理経費支出

前年度比380千円減の8,209千円となりました。
経常費補助金返還金、修繕費が減少したものです。

- (4)借入金等利息支出
333千円となりました。
長期借入金の利息支払いによるものです。
- (5)借入金等返済支出
5,550千円となりました。
新築・耐震工事の借入金100百万円の返済が平成30年3月より始まっております。
- (6)施設関係支出
0円となりました。
一連の改修工事が終わったことによるものです。
- (7)設備関係支出
前年度比3,034千円増の3,725千円となりました。
ソフトウェア支出によるものです。
- (8)資産運用支出
0千円となりました。
- (9)その他の支出
前年度比414千円減の3,380千円となりました。
前期末未払金支出の減少によるものです。

2 活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書は、資金収支計算書を「教育活動」、「施設整備等活動」と「その他の活動」の三つの活動区分に区分し、活動ごとの資金の流れを明らかにすることを目的としています。

(1)教育活動による資金収支の状況

「教育活動」の収入は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、寄附金収入、補助金収入などです。寄付金収入及び補助金収入のうち、施設設備に係わる寄付金、補助金は、「施設整備等活動」の収入に区分されます。

「教育活動」の支出は、人件費支出、教育研究経費支出、管理経費支出です。
令和5年度の教育活動資金収入計は、59,811千円、教育活動資金支出計は、60,167千円で、差引△356千円となり、調整勘定等8,607千円を加味した教育活動資金収支差額は、8,250千円となりました。入学者数の増加により調整勘定の前受金収入が増加したことが影響しております。

(2)施設整備等活動による資金収支の状況

「施設整備等活動」の収入は、施設整備補助金収入など施設設備の整備を目的としたものです。「施設整備等活動」の支出は、施設・設備関係支出です。

令和5年度の施設整備等活動資金収入計は、0千円、施設整備等活動資金支出計は、3,725千円で、差引△3,725千円となり、調整勘定等2,404千円を加味した施設整備等活動資金収支差額は、△1,321千円となりました。

また、教育活動資金収支差額と施設設備等活動資金収支差額の計は、6,929千円となりました。

(3)その他の活動による資金収支の状況

「その他の活動」の収入は、借入金収入・受取利息・配当金収入などです。「その他の活動」の支出は、借入金等返済支出、借入金等利息支出などです。

令和5年度のその他の活動資金収入計は、907千円、その他の活動資金支出計は5,883千円で、その他の活動資金収支差額は、△4,976千円となりました。

以上の結果、支払資金の増減は、1,953千円となり、前年度繰越支払資金130,179千円を加えた翌年度繰越支払資金は、132,132千円となりました。

3 事業活動収支計算書の概要

(事業活動収支計算書からみた概要)

事業活動収支計算書は、「教育活動」、「教育活動以外の経常的な活動」と「臨時的活動」の各活動に対応する事業活動収入及び事業活動支出の内容を明らかにするとともに、「基本金組入額」を控除した当該会計年度の諸活動に対応する全ての事業活動収入及び事業活動支出の均衡状態を明らかにすることを目的としています。

(1)経常収支(教育活動・教育活動外収支)の状況

学生生徒等納付金、手数料、経常費等補助金などの教育活動収入は、62,488千円となりました。人件費、教育研究経費、管理経費などの教育活動支出は、94,192千円となりました。その結果、教育活動収支差額は△31,704千円となり、教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合算した経常収支差額は△31,224千円となりました。

(2) 特別収支の状況

今年度の施設整備に係わる現物寄付や補助金などの特別収入は0千円。また特別支出につきましても0千円、特別収支差額は、0千円となりました。

(3) 基本金組組入前当年度収支差額

経常収支差額と特別収支差額を合算した基本金組入前当年度収支差額は、△31,224千円となりました。

(4) 当年度収支差額・翌年度繰越収支差額

基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計△3,580千円を差し引いた当年度収支差額は、△34,804千円となりました。

前年度繰越収支差額△467,618千円と当年度収支差額を合算した翌年度繰越収支差額は△502,422千円となりました。

4 貸借対照表の概要

(貸借対照表から見た概要及び前年度との対比)

貸借対照表は、期末における財政状態を示しています。資産がどのような調達源泉、すなわち負債(借入金等)、基本金(自己資金により調達した額)及び繰越収支差額によってまかなわれているかを表示しています。

(1) 資産の状況

年度末の資産の部合計は、800,940千円で、前年度末に比べて28,840千円減となりました。

有形固定資産は、前年度より33,300千円減の656,494千円となりました。主な要因は、建物と構築物の減価償却によるものです。

その他の固定資産は、前年度より3,313千円増の12,208千円となりました。ソフトウェア(会計システム)の入れ替えによるものです。

流動資産は、1,148千円増の132,238千円となりました。

(2) 負債の状況

負債の部合計は、105,530千円で、前年度末に比べて2,384千円増となりました。

固定負債は、前年度末に比べて7,915千円減の8,067千円となりました。減少の要因は、長期借入金の返済と退職給与引当金の減少によるものです。

流動負債は、前年度末に比べて10,300千円増の24,852千円となりました。未払金、前受金の増加によるものです。

(3) 純資産の状況

純資産の部合計は、695,410千円で、前年度末に比べて31,224千円減となりました。

基本金は、前年度比3,580千円増の1,197,832千円となりました。

繰越収支差額は、事業活動収支計算の結果、前年度末に比べ34,804千円増となり502,422千円の支出超過となりました。

IV 対処すべき課題

新型コロナウイルス感染症は分類が5類になり活動制限が緩和され、円安の影響により海外観光客も増え、インバウンド需要は拡大しておりますが、日本全国で頻発する地震、各国での紛争と国際的緊張、エネルギー価格の急騰等生活の安全と安心を脅かす要因が後を絶ちません。急速な少子化も進み学生数の減少が顕著なものとなっています。しかし、令和6年4月入学者は増加いたしました。

多種多様な学生に対する募集に注力し、本学の特色でもある全寮制(大家族)を生かし、留学生の受け入れを行い、建学の精神である「行学一体」を全面に掲げ、安定的に学生を確保することが課題であります。幅広く禅の学校である本学の存在をPRしていくことが大切であると考えております。